令和５年度第１回秋田県立美術館運営協議会（議事録要旨）

１　日　時　　令和５年６月２９日（木）　１４：００～１５：３０
２　場　所　　秋田県立美術館　１階　レクチャールーム
３　出席者　　秋田県立美術館運営協議会委員　６名（欠席１名）
　　事務局　４名（生涯学習課１名、公益財団法人平野政吉美術財団３名）
　　※当日出席できなかった委員１名については、事前に事務局から同様の報告等を行い、御質問や御意見をいただいた上で、本要旨に掲載している。

４　次　第
（１）開会
（２）公益財団法人平野政吉美術財団業務執行理事（秋田県立美術館長）あいさつ
（３）生涯学習課長あいさつ
（４）出席者紹介
（５）報告
　① 令和４年度 秋田県立美術館事業の報告について
　② 令和５年度 秋田県立美術館事業の概況について
　③ ミュージアム活性化事業について
（６）協議（意見交換）
　① 展示事業について
　② 教育普及事業について
　③ 広報について
　④ 運営全般について
（７）その他
（８）閉会

５　協議概要（〇：協議会委員　■：事務局）
① 展示事業について
（ア）特別展について
〇　現在開催中の「乙女デザイン展」で、入場者が１万人を達成したことは喜ばしい。県立図書館や文学資料館など、近隣の施設同士が連携・協力している点が良かった。県立図書館では関連コーナーを設置しているし、文学資料館では竹久夢二の関連本を展示している。特に、県立美術館と文学資料館は徒歩圏内にあるので、こうした取組を行うことで、市内の回遊性が高まり、好循環が生まれるように思う。展示内容については、作風が本展にマッチしていることから、秋田ゆかりの画家・斎藤佳三なども紹介できたのではないか。

〇　上野の美術館などを訪れて感じるのは、スマホ等で撮影したがる観覧者が増えたことである。自分が美術館に引率する学生なども、スマホで撮影をし、記録を持ち帰りたがる傾向にある。「乙女デザイン展」で連携していた県立図書館のコーナーも撮影可能ではなかったか。著作権等の問題がないものであれば、撮影できる資料やコーナーが館内にあっても良いのではないか。

〇　北斎漫画展で予定されている関連イベント「子どもと楽しむギャラリートーク」は非常に良いと思う。ただ、申込方法が電話かファックスに限られているので、チラシにＱＲコードを載せるなど、より手軽に申し込める方法も検討してほしい。また、直接来館することはできないが、美術に興味のある子どもが参加できるような取組があるとなお良い。

■　御指摘の点について検討してまいりたい。他施設との連携や関連イベントなど、今年度の各特別展における工夫点については、資料にまとめているので、そちらも参考にして欲しい。

○　特別展の開催にあたっては、いつ頃から企画が動き始めるのか。

■　計画自体はかなり早く、２～３年ほど前から動き始める。展覧会概要や予算案が県議会で審議されるのは開催の前年度となる。

（イ）企画展について

○　令和４年度に開催された「藤田嗣治が愛したものたち」の展示構成で、≪眠れる女≫の隣に≪五人女≫を置くなどの工夫に感心した。企画展は、派手さはないかもしれないが、こういった学芸員の手腕が観られるので期待している。

○　時勢にあった企画も考慮に入れてほしい。例えば現在上映されているバスケットのアニメは県内各所で様々なコラボ企画が行われており、子どもたちからの人気が非常に高くなっている。美術館でもコラボできればファミリー層が多く来館すると思う。

② 教育普及事業について

○　障がいのある子どもを持つ保護者の方や先生方は、美術館のルールを守らせながら作品を鑑賞させることに、心理的なハードルを感じている部分もあると思う。特別支援学校では、オンラインを利用した取り組みが活発になってきているので、セカンドスクール的利用やギャラリートークへの参加など、リモートでやっていただけると活用の幅が広がる。ただし、通信環境が安定していない場合は、ビデオレター（限定のyoutube配信など）の方が良い場合もある。

○「手話解説付きのギャラリートーク」は良い取組だと思う。継続して欲しい。

○「障がいを持つ子どものための日」などがあれば、気兼ねなく来館できるのではないか。また、障がいを持つ方は学校を卒業すると、美術に触れる機会が少なくなってしまう。学校を卒業した方のための場もあると良い。

■　この４月に改正博物館法が施行されたことを受け、「社会包摂」や「ＤＸ推進」については、これまで以上に重要な取組になっていくと考えている。今年度は、近代美術館で「メタバース×ＭＵＳＥＵＭあきた構築事業」に取り組んでおり、本格的な運用が始まる令和６年度からは、メタバース空間上で、全く新しい形の鑑賞体験等を提供できる予定である。

○　夏の「北斎漫画展」で行われる「子どもと楽しむギャラリートーク」は、非常に良い取組だと思う。かねてから、子どもと一緒に楽しめる企画があれば良いと考えていた。

○　学校教育だけでは充分に「感性」を育むことは難しい。美術館のワークショップのような場で、感性や技術の導入を教える事が重要ではないか。また、大人が子どもたちを美術館等へ連れて行きたくなるような環境づくりが必要であると考える。

③ 広報について

○　最近の学生は、新聞をほとんど読んでいないし、テレビもそれほど観ない。スマホで全てを済ませてしまう傾向にある。概して、シニア層はテレビや新聞、若年層はスマホやパソコンというように情報媒体が二分化しているため、双方に対応していく必要がある。

○　展覧会のチラシには、スマホで即時に公式ウェブサイト等へアクセス可能となるように、ＱＲコードを掲載した方が良い。インスタグラムなども活用してはどうか。

○　最近は旅行をするにも目的を明確に立てて無駄なく行動する人が多いように感じる。これまでの様にのんびりと行き当たった場所を楽しむ人が少なくなる中で、そういった人たちの明確な旅行目的となるように情報発信をしていく必要がある。

④ 運営全般について

○　建物が立派なためか、ふらっと訪れた人が入りにくいように感じる。特に企画展などは入場料も高額ではないので、入館しやすい雰囲気づくりをすると良いのではないか。

○　今年度に入ってクルーズ船の寄港が増加しているが、入館者への影響はどの程度あるのか。

■　4,000人規模の船が寄港した際に200人程度が来館するため、平均して乗客の５％程度が来館している計算になる。複数あるオプショナルツアーの１つに、美術館が入っている。

○　クルーズ船の来航があっても仲小路商店街が賑わっている印象がない。クルーズ船のお客様がもっと消費したくなるような方策が必要ではないか。

○　にぎわい創出については理解しているものの、隣にイベント広場があり、音楽が展示室内に入ってくるような状態は好ましくない。

■　本日は、貴重なご意見を多数いただいた。今後の美術館運営に生かしてまいりたい。
第２回の運営協議会は、年明けに書面での開催となる。その際にも忌憚のない御意見を賜りたい。